

富士山 須走口

山スキー

2022年04月23日(土)

L：桐林

4月23日朝3時手前に浜松を出発。行きは高速で。前日にあざみラインの通行止めを知った。水平距離+12km, 標高差+700mの徒歩になるが、決まってるものはしょうがない。山頂へ着けずとも、気持ちが良い滑走が出来ればよし。そんな心意気で迎えるも散々な結果なった。



森林限界を超え、白銀の世界へ

道の駅すばしりに駐車し、スキーを担いで須走口5号目へ。5時前に発。最初はファイトが湧いていたが、やはり重たい。古い山道や最近できたショートカットへ行くも、スキーが木に引っかかり、靴が当たり、しかも、富士山の雪は全然まだまだ。開始1時間で意気消沈。各ルートにある馬返しの看板1合目を見た時ほど、ため息をついたことはない。とにかく3000mまでは行こうと、とぼとぼ歩く。

須走口5合目に7時30分過ぎに到着。

ここから昨日のトレースと思われる踏み跡に足を合わせて進んだ。もうこれ以上は岩が出てこないだろうというポイントで、スキーを履いた。そこから無我夢中で標高を稼いでいった。途中から急に喉が乾き、口の中がパサパサ、しかも酸素が足りない？止まっては動き、まだ2500mも行っていないぞ！？+12kmが効いてきたか、めげそうな気持ちを殺して3000mは、行こうと励ました。新7合目が見え、あと少し2950mで断念。11時半。意識が朦朧とし、スキー板を落とすんじゃないかと腰を折り曲げシールを取ったスキー板を履いた。そこからは苦しさから解放され、標高差700mの滑走。これが富士山かあ。ザラメの気持ちの良いターンを決め、やっぱり来てよかったと噛み締めた。次は山頂からドロップしたい。



ここはもう、あなたのキャンパス